

会報 まつもと 50号



平成 30 年 7 月 17 日 発行

(公財)長野県長寿社会開発センター 松本地区賛助会

松本市島立 1020 松本保健福祉事務所福祉課内

発行責任者 小岩井 定男 発行部数 1,000 部

平成 30 年度総会が開催される

今年度総会が平成 30 年 4 月 26 日 (木) 長野県看護協会会館において開催されました。当日は 77 名の出席者があり、初めに全員で県歌「信濃の国」を斉唱してから、小野賛助会長のあいさつ、森山松本支部長と備前塩尻友愛クラブ連合会長の祝辞に続いて議長に「ローレル」の武重グループ長が選出されました。

1 議 事

第 1 号議案 平成 29 年度事業報告、決算報告および監査報告について

第 2 号議案 平成 30 年度事業計画 (案) および予算 (案) について

第 3 号議案 会則の変更について 会則のうち内規 8 条 (1) 役員選出区分の基準

・常任理事は 4 系統の活動グループとグループ数に分け、選出役員数はグループ数と会員数比率を 50 対 50 にする。

第 4 号議案 役員改選について

・一般会員理事と 30 年度 31 年度の常任理事および会長、副会長、会計の新役員について議事

第 5 号議案 その他 賛助会員の増強について意見あり

◎以上の議案について、武重議長の進行によりすべて承認されました。

2 コーラス 「コーラス“りんどう”」による唱歌発表

3 事例発表 「燦久会」井グループ長「県シニア大あさひ会」三村グループ長が活動事例についてそれぞれ発表しました。

4 講 演 演題「寄り添う」 講師 (公社) 長野県看護協会 松本あつ子 会長

『賛助会長のあいさつ』(要旨)

小野松本地区賛助会長のあいさつ



松本地区賛助会の会員数は現在 631 名。前年より 44 名の減少。98 名の新規入会者があっても減少している。退会者が大勢いる。理由としては、賛助会に加入してなくても活動はできる。役員などの業務をやりたくないなど種々あるが、高齢者が増加している中でも世間では老人クラブなどの会員減少が続いている。みんなで声をあげて社会参加交流をして欲しい。

会長職 8 年間のご支援に深く感謝する。ありがとうございました。(※ H30 年 5 月 1 日現在 会員は 603 名)

『ご来賓のあいさつ』（要旨）

森山支部長のあいさつ

長野県と長寿社会開発センターは密接に手を取り合い、賛助会の活動を推進している。特にシニア活動推進コーディネーターの充実した活動をしっかりと支援していく。松本学部の2年生は安曇野市豊科の安曇野庁舎、1年生は塩尻広丘の総合教育センターに分散して学んでいる。特に1年生は113名と定員以下であるので皆様のご協力もよろしく願いたい。



備前塩尻友愛クラブ連合会長のあいさつ



人生90年、100年と言われているが子供は増えていない。高齢者の定義は65歳となっているが10年延ばして75歳としたらどうか。今後定年は70歳、年金支給開始も70歳と言われているが、個人差が多くまた格差も大きくなっている。いずれにせよ健康第一であり健康寿命を平均年齢に近づけていくことが必要であり大事である。



議事の様子

ご来賓のあいさつと紹介に続いて、武重議長が選出され議事が進められました。

5件の議案は質問を交えた真剣な討議によりすべて承認されました。

監事の中村 宏さんが退任され後任監事として武重 孔二さんが選任され承認されました。



議長を務め、新しく監事になられた武重さん



総会参加者の皆さん

議事において質問される会員

活動サポーターに委嘱される

(公財)長野県長寿社会開発センター松本地区賛助会から驚沢暢夫さん、三村共子さん、松本功さん(左から)の3名が活動サポーターとして本部より委嘱されました。ご三方の今後活躍されることを期待いたします。



講演会

総会では「寄り添う」という演題で(公社)長野県看護協会の松本あつ子会長から講演をしていただきました。(公社)長野県看護協会は松本地区賛助会の法人会員です。



長野県看護協会の構成や役割などのお話につき、看護のあるべき姿とその研究、普及の実態を踏まえて最近問題提起されている認知症に対しては「見る」「話す」「触れる」「立つ」の四つの基本テクニックなどでいかに寄り添うか、具体例を交え大変参考になるお話をお聞きいたしました。

コーラス

コーラス“りんどう“

伊藤美枝子グループ長

指導者の川村佳子先生の指揮により「花」「春のあこがれ」「花の町」「花のまわり」「夢路より」の5曲が歌われました。川村先生の素晴らしい独唱もあり、例年のことながら素晴らしい歌声を披露していただきました。また会場にはピアノがなく、李龍春先生が大きな電子ピアノを2階の会場まで運んでくださり伴奏していただきました。



事例発表 1

「燦久会」

井 宣隆グループ長

シニア大学 39 期卒業生の活動で、料理・ウォーキング・マレットゴルフ・カラオケ・ボウリング・旅行など 8 部会があり、活発な活動状況が報告されました。(活動グループ紹介(8頁)記事あり)



事例発表 2

「県シニア大あさひ会」

三村共子グループ長

朝日村出身のシニア大学卒業生 36 名のボランティア団体で、福祉施設のお手伝い、美術館周辺の清掃、児童館のお手伝いを通じて会員の親睦を図っている活動の様子が報告されました。



平成 30 年度予算 (総会資料)

収入の部			
科 目	予算額	前年度実績	備 考
繰越金	28,080	974	前年度繰越金
センター交付金	260,000	253,000	H30.5.1 会員数
協賛金	30,000	30,000	法人賛助会員
その他	0	17,500	景品販売など
合 計	318,080	301,474	
支出の部			
科 目	予算額	前年度実績	備 考
総 会	40,000	35,791	講師謝礼他
活動発表会	185,000	128,570	
三世代文化交流大会	140,000	103,596	会場費・冷房代・謝礼他
生涯スポーツ交流大会	40,000	24,974	参加賞、印刷、消耗品他
作品展	5,000	0	
常任理事会・理事会	40,000	46,808	通信費、印刷、消耗品他
地区賛助会会報	40,000	54,115	用紙、印刷、消耗品他
会員加入促進費	10,000	8,110	資料作成、通信費
予備費	3,080	0	
支 出 合 計	318,080	273,394	
次年度繰越金	0	28,080	
合 計	318,080	301,474	

平成 30 年度予算は左表の通り総会にて承認されました。

収入の部、昨年度実績のその他収入は、生涯スポーツ交流大会が雨天中止となり事前に購入済みの賞品などを販売した収入金額などです。



平成 30・31 年度役員

会長、副会長、会計、常任理事が右表の通り承認されました。任期は平成 32 年(2020 年)3 月 31 日までの 2 年間です。

小岩井新会長のあいさつ

皆さんこんにちは。賛助会員減少に歯止めの掛からない厳しい中、この度会長職を拝命致しました小岩井定男です。地区賛助会の運営を任されることになり責務の重大さを痛感いたしております。

私は、次の三つに基づき運営していきたいと考えております。①完璧を求め過ぎない。②誰かと比較をしない。③スタッフに頼る。

厳しい環境の時こそ新しい発想と 1 人ひとりの努力が成果となってまいります。今後、会員の皆様の厳しいご指導と温かいご支援を心からお願い申し上げます。新役員一同、粉骨努力し賛助会活動を盛り上げていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

役 職	氏 名	出 身	委員会
会 長	小岩井定男	グループ(ホランテア)	
副会長	荒田 直	グループ(文化)	事業推進委員長
副会長	佐藤 陽子	グループ(文化)	活動推進委員長
会 計	小林 直美	グループ(文化)	会報編集委員長
常任理事	三村 共子	グループ(ホランテア)	事業推進副委員長
常任理事	井 宣隆	グループ(総合)	事業推進委員
常任理事	青柳 秀人	地域(松本)	事業推進委員
常任理事	松澤 強志	地域(松本)	事業推進委員
常任理事	小松 孝	地域(松本)	事業推進委員
常任理事	松本 健治	地域(安曇野)	事業推進委員
常任理事	野畑 義貴	グループ(総合)	活動推進副委員長
常任理事	百瀬 公人	グループ(スポーツ)	活動推進委員
常任理事	松本 功	グループ(総合)	活動推進委員
常任理事	鷺沢 暢夫	地域(安曇野)	活動推進委員
常任理事	矢口 貞一	地域(安曇野)	活動推進委員
常任理事	臼井 紀幸	地域(安曇野)	活動推進委員
常任理事	林 喜代子	地域(松本)	会報編集副委員長
常任理事	飯沼 忠文	グループ(スポーツ)	会報編集委員
常任理事	伊藤 美枝子	地域(松本)	会報編集委員
常任理事	石井 一明	地域(塩尻)	会報編集委員
常任理事	山本 英男	会長出身区分	会報編集委員
事務局長	松本 功	グループ(総合)	活動推進委員兼務
事務局員	(調整中)		

会報 50 号を迎えて

会報 50 号おめでとう

松本地区賛助会初代会長 百瀬 実

松本地区賛助会会報発行 50 号記念を迎えられる由、誠におめでとうございます。役員はじめ会報編集委員の多大なるご尽力に心から感謝申し上げます。当松本支部賛助会は平成 2 年グループとして設立され、長年にわたり先輩各位のご努力に依り、グループ数・グループ会員数共に増加してきましたが、平成 17 年県の「改革改善基本方針」により長寿社会開発センターはもとより各支部賛助会も新しい自立した自主自立の企画運営が求められました。従って当支部賛助会も 17 年来より松本地区賛助会として設立のため設立準備委員会を設け、広くグループ会員の幾多の提言を求め、平成 18 年 3 月松本地区賛助会の総会を開催、今日の自覚した基本方針と三大事業活動委員会を設け、第一に事業委員会、第二にグループ活動推進委員会、そして第三に会報委員会としてグループ活動情報はもとより、会報発行とともに県会報「F80」と提携を図り賛助会法人会員様含む拡大された地域社会活動等充実した生きた会報として当会の誇りと、感謝しています。しかしながら近年は社会経済共多種多様な課題が多くなったように思います。当賛助会に於いてもシニア大生の減少等身近な活動に及ぶ課題は、地域社会活動と共に松本地区賛助会に期待されてきました。



終わりに、幾多の課題を乗り越えられた経験豊かな役員、会報編集委員様の益々のご健勝をお祈り申し上げ、会報 50 号記念のお祝いの挨拶とさせていただきます。

「会報まつもと」編集に携わって

会報編集委員 林 喜代子

私が編集委員を引き受けたのは平成 22 年 4 月で、第 19 号より携わってまいりました。当時は 16 ページで、印刷は輪転機だったので中々きれいにできず苦勞しました。



平成 24 年県の事業仕分けのしわ寄せが賛助会にも訪れ、26 号より経費節約のためページ数を半分の 8 ページにしました。そして輪転機からコピー機になり、字も 1 フォント小さくし、「読者の声」「パソコンコーナー」なども無くしたりしてこじんまりとリニューアルしまして、今日に至っています。

印刷から発送まではボランティア（松本ボランティア会・つばさの会・25Q の会）の方々の協力で助かっています。これからも編集委員一丸となって良い知恵を寄せ合い、会員の皆様に愛される会報にしたいと思います。

会報 50 号を迎えて

老いることは…成熟すること

松本地区賛助会 二代目会長 宮川正文

松本地区賛助会は平成 18 年度百瀬会長さんの時、地区に根差した地区独自の事業推進のため①事業計画推進②活動グループ推進③会報編集の三委員会を設定し運営主体事業として、三世代文化交流大会他いくつかの独自活動を計画し、三委員会が連携を保ちつつ主体性を持って活動できる組織にした。

平成 19 年 5 月に第 1 回三世代文化交流大会が島内保育園・島内小学校・島内・島立地区の皆さんと共同で開催し、大成功で今後への大きな弾みとなり、平成 20 年度は更に新村・神林地区も参加していただき、プログラムの内容も単に会員の発表だけにとどまらず地域団体の参加も増えて充実し、昨年度は 11 回を数え支部独自の活動として完全に定着した。

また活動グループでは会員加入促進の強化、21 年度から合庁ホールでの会員作品展を開始し、現在につづいており会報編集ではページ数の拡大、一部カラー印刷にと創意が顕著であった。



私は平成 20・21 年度と会長の任を負いましたが、三役・理事・会員の皆さんの^{いと}労を厭わないご支援のおかげで、未熟な私でしたが少しはその任を果たせたと思います。

賛助会活動を通じて私は、「老いることは衰弱ではなく成熟することである」ということをしみじみと学び幸せだった。

これからも一会員として微力を尽くしていきたい。

三世代文化交流大会で小学生と平面キューブで交流する宮川さんと児童達

会報 50 号を迎えて

会報 50 号記念特集に寄せて

松本地区賛助会 三代目（前）会長 小野 松雄

「会報まつもと 50 号」発行おめでとうございます。

創刊号は平成 18 年 4 月 30 日発行でした。それまでは松本支部が「賛助会通信」として最終号 No.81 号平成 18 年 1 月 31 日発行まで老人大学運営事務局の生きがい対策推進員が取材から編集・校正・印刷に至るまで担当してきました。

県は 56 の「県出資外郭団体」を廃止・縮小・統合・条件付き継続等の見直しがされ、財団法人長野県長寿社会開発センターは自主・自律の条件付きで継続となりました。

これまでセンター賛助会に関わる企画・連絡調整・通知・資料作成・運営を生きがい対策推進員が担当、平成 18 年 4 月からはその全てを賛助会員が担う事になりました。会報ももちろん賛助会が担い創刊号から私が、会計兼会報編集委員長として責務を果たすことになりました。

初代、百瀬 実会長の標榜「賛助会が希望の持てる明日の会になるよう」との強い方針に基づき、できる限り地域密着・読者参加型、文面の文字は大きく・写真を取り入れることを目指して取り組むことに致しました。

このような思いで取り組みましたが、十分な内容とはなりません。とりわけ写真掲載については黒くて分からないとのご指摘を頂きました。その後も工夫を凝らしてきましたが不十分だと思います。技術が進む中、カラー写真であればもっと見やすく愛される紙面となると思います。会報発行責任者としての責務が果たせず責任を痛感しております。

賛助会新役員体制にこの課題カラー化の費用面での解決をゆだねる事になってしまい申し訳なくお許しを頂きたいと思っております。

センター本部情報誌「信州りらく」と共に「会報まつもと」が情報誌の更なる役割を果たされることを心からご祈念申し上げまして会報 50 号記念特集の寄稿とさせていただきます。



生涯スポーツ大会・三世代文化交流大会等種々行事で挨拶する小野前会長

活動グループ紹介

「燦久会」

グループ長 井 宣隆

「燦久会」は、平成 29 年 4 月、「豊かで活力ある高齢者社会の構築と発展に寄与するため、長野県シニア大学松本学部 39 期卒業生が中心となり、燦久会を設立する。このため、文化、スポーツ、ボランティア等の諸活動を行い、会員相互の交流を深める。」という趣旨で発足しました。①健康作り ②生きがい作り ③社会貢献（ボランティア活動）が活動の三本柱です。平成 29 年度は、卒業生 198 名のうち 130 名、平成 30 年度は 117 名が参加し、8 つの部会で活動しています。昨年度活動実績は、「料理：年 12 回」、「カラオケコーラス：年 12 回」、「マレットゴルフ：9 回（冬季休み）」「ウォーキング：8 回（冬季休み）」「雀友会：年 12 回」「ボウリング：年 6 回」「旅行：年 1 回」「ボランティア（カラオケ指導：50 回）・（再生トリオ：年 8～10 回）」等活発に活動しています。



「墨友会」

グループ長 臼井 紀幸

シニア大学で水墨画を学び、もっと研鑽を積んでみたいと参集した、年次の異なった方々の会でどなたでも入会自由です。今年 2 名が新たに加わり現在会員は 7 名です。講師はシニア大学で教えておられる青柳祝子先生です。先生の丁寧なご指導のもと月 1 回（2 時間）松本市鎌田地区公民館で講習会を開催しております。構図、筆使い、墨の濃淡などいろいろ教えていただき技術の習得に励んでおります。会員は春・秋の賛助会作品展、長野県高齢者作品展、水墨画県展、水墨画中信展に積極的に出品しており、入選者も出ています。

会の名前のおりお互いに批評しあい楽しく学び、技術の習得と会員相互の親睦を図る会です。どうぞよろしくお願ひします。



創作に励む会員の皆さん

行事の報告 1

1 賛助会春の作品展（第2次）

期 日：平成30年4月18日（月）～25日（火）

会 場：松本合同庁舎 1階ロビー



松本地区
賛助会春の
作品展が開
催されまし
た。今回は



第2次の展示として絵画、手芸、写真、陶芸などの作品が展示されました。会場では一般の来場者も高齢者の素晴らしい作品に見入っていました。



2 シニア大学講座聴講

シニア大学2年生の始業式に開催された、「戦争を語りつぐと題した「命ありて」と「おじいちゃん」の映画と講座を聴講しました。講師は伊那市出身の映画監督の後藤俊夫先生です。（以下内容を抜粋）

「命ありて」は伊那高女（現 伊那弥生ヶ丘高校）の生徒270名が名古屋の三菱重工航空機製作所に出動を命じられ「ゼロ戦」の工場に配置された。米軍の爆撃によりついに死亡者が出た。（15歳）引率の白鳥先生が死亡した生徒の霊を母校で弔いたいと会社側と折衝し、悪戦苦闘の末ようやく認められ生徒全員を返すことができた。淀川校長は白鳥先生の英断を支持し「今後は私の責任で生徒が殺されるようなところへは戻さぬ」憲兵隊の厄介になろうとも非国民と言われようが何としても生徒を二度と名古屋に戻さなかった。命を懸けて教え子を守った素晴らしい教育者が故郷にいたことを誇りに思う。

「おじいちゃん」は65歳以上の高齢者の4人に1人が「認知症」もしくは「予備軍」と言われているテーマとして描かれていました。

後藤俊夫監督は山本薩夫監督に師事し現在はドキュメンタリー映画を主に制作している。



松本地区 法人賛助会員 様

○キッセイ薬品工業株式会社

○松本倉庫株式会社

○公益社団法人 長野県看護協会

○アズサイエンス株式会社

○長野トンボ株式会社

○株式会社 プラルト

○株式会社 長野銀行

○一般社団法人 長野県薬剤師会

○松本信用金庫

法人会員様は、明るく、夢広がる、豊かな「人生100年時代」の実現のために（公財）長野県長寿社会開発センターの事業や活動をバックアップされています。

行事の報告 2

1 ウォーキング交流会 松本名水巡り

期 日：平成 30 年 5 月 24 日（木）9 時 45 分～
場 所：松本市内名水巡り
担 当：山紫ウォーキング
参加者：27 名



松本市立博物館前に集合し、2 グループに分かれガイドさんの案内で城下町の雰囲気を残す街中の名水を巡り、「東門の井戸」「蔵の井戸」「源池の井戸」「槻井泉神社の湧水」「妙勝寺の井戸」「日の出の泉薬祖水」など 10 か所以上を、時には名水を飲み比べしながら散策しました。豊富に湧き出る地下水が昔の人たちの暮らしや生活を支え、現代に安らぎを与えてくれる名水に感謝です。

2 マレットゴルフ交流会

期 日：平成 30 年 6 月 21 日（木）9 時～
場 所：安曇野市穂高 権現宮マレット場
担 当：アルプスマレット

心配された天気も開会するころは雨も止み、参加者 31 名で予定通りプレーできました。林間コースでしかも雨上がりのゴルフ場に皆さん苦労しながら、ホールインワンに歓声を上げ、思い思いのプレーを楽しみながら、素晴らしい交流会ができました。



入賞者の皆さん

優 勝 小野松雄さん
中村道子さん
準優勝 野畑義貴さん
小岩井秀子さん
三 位 小岩井寛さん
三澤佑子さん



3 新グループ長・交代グループ長懇談会を開催

期 日：平成 30 年 6 月 22 日（金）13 時 30 分～
場 所：松本合同庁舎会議室

○新グループ長

- ・「華の会」 山田 和子グループ長
- ・「アルプスボウリングクラブ」 大槻 紘一グループ長

○交代グループ長

- ・「松本城案内グループ」 山本 英男グループ長
- ・「ローレル」 小野 松雄グループ長
- ・「(重文) 旧開智学校案内班」 小岩井定男グループ長
- ・「勝翠会」 宮浦 節夫グループ長



本部センターや賛助会の現況と運営などについて、グループ長として賛助会を理解しグループ活動が長続きするよう期待して開催されました。

行事予告 1 『マレットゴルフ交流会』

日 時：平成 30 年 9 月 20 日（木） 9：00～12：30
会 場：信州スカイパーク 林間コース 現地集合
担 当：老大 27 期マレットゴルフ同好会
会 費：300 円
申 込：グループ長経由で小岩井寛グループ長 0263-25-5493
または佐藤陽子活動推進委員長 0263-32-2519
締 切：9 月 13 日（木）



前回の様子

行事予告 2 『第 1 回グラウンド・ゴルフ交流会』

日 時：10 月 10 日（水） 9：00～12：00
場 所：信州スカイパーク グラウンドゴルフ場
担 当：グラウンド・ゴルフ
会 費：200 円
申 込：グループ長経由で百瀬公人グループ長 0263-52-6218
または佐藤陽子活動推進委員長 0263-32-2519
締 切：9 月 30 日（日）
その他：用具のない方は担当が用意します。申込時に申し出ください。

開催日時変更のお知らせ

・総会の H30 事業計画では 10 月 9 日となっていたりましたが、都合により 10 日とさせていただきます。同様に 2 回目は 11 月 20 日が 21 日となりました。

行事予告 3 『第 2 回ウォーキング交流会』

日 時：平成 30 年 10 月 18 日（木） 9：30～12：00
場 所：松本市アルプス公園
集 合：（元）まきば山荘 南駐車場
担 当：山紫ウォーキング
申 込：グループ長経由で飯沼忠文グループ長 090-8593-8278
または佐藤陽子活動推進委員長 0263-32-2519
締 切：10 月 11 日（木）



前回の様子

行事予告 4 『秋の作品展 募集』

期 間：1 次・平成 30 年 11 月 05 日～12 日（水墨画）
2 次・平成 30 年 11 月 13 日～20 日（水墨画以外）
会 場：松本合同庁舎 1 階 ロビー
担 当：活動グループ推進委員会
申 込：所属のグループ長経由で佐藤陽子活動推進委員長 0263-32-2519
締 切：1 次・10 月 29 日（月） 2 次・11 月 6 日（火）



前回の様子

行事予告 5 『2018 信州ねんりんピック文化芸術交流大会』

日 時：平成 30 年 9 月 29 日（土）式典、ステージ発表など
作品展：9 月 28 日（金） 10：00～9 月 30 日（日） 12：00
場 所：佐久市コスモホール（佐久市小田切 124-1）
募 集：式典参加者を募集します。支部事務局へ申込してください。（自己負担あり）
問合せ：松本支部事務局（Tel 0263-40-1911） 申込締切り：9 月 14 日（金）



平成30年度 生涯スポーツ交流大会のお知らせ

日時 平成30年9月13日(木) 8:30~15:30(小雨決行)
場所 信州スカイパーク松本平広域公園
集合 南管理棟前広場
種目 (午前の部) グラウンド・ゴルフまたはペタンク(どちらかを選択)
(午後の部) マレットゴルフ(全員参加)
主催 長野県長寿社会開発センター松本支部および松本地区賛助会
運営 生涯スポーツ交流大会実行委員会
後援 ○市民タイムス ○松本信用金庫
○長野県看護協会
申込 賛助会のグループ加入者はグループ長へ申し込む
グループ長はまとめて大会事務局へ申し込む
未加入者は大会事務局へ参加申込票を提出する。
締切 平成30年8月17日 (TEL: 0263-40-1911)



「いきいき地域社会を求めて」

第12回 三世代文化交流大会のお知らせ

日時 平成30年10月12日(金) 10:00~16:00
場所 松本市音楽文化ホール 小ホール
主催 長野県長寿社会開発センター松本支部および松本地区賛助会
運営 三世代文化交流大会実行委員会
後援 ○松本市教育委員会 ○キッセイ薬品工業
○井上百貨店 ○長野銀行
○長野県看護協会 ○市民タイムス
内容 発表と交流
○うた(コーラス・唱歌) ○踊り(遊戯・日本舞踊・剣舞)
○演奏(文化箏・ハンドベル・銭太鼓) ○マジックショー
○交流(平面キューブ・ピエロパフォーマンス)
入場料 無料 問合せ: 小岩井定男大会実行委員長 (TEL: 090-5392-8881)



編集後記

新年度会報編集委員会も一新してスタートとなりました。早いもので今回第50号を発刊することとなりました。そこで50号記念として4ページ増やして多彩な記事を掲載したいと頑張ってみました。いかがだったでしょうか。これからも少しでも会員の皆様のお役に立つよう、会報編集委員一同頑張っていきたいと思っております。「会報まつもと」は年4回の発行ですから、50号と言えば今から12年前に始まったわけで、ここまで育てて頂いた前任者のご苦勞の程がうかがえ、感謝でいっぱいです。

編集委員長: 小林直美 委員: 林喜代子・飯沼忠文・伊藤美枝子・石井一明・山本英男
以上6名です。ご支援よろしくお願い致します。 (H・Y)